

# 令和2年度南信州地域計画の取組実績について

～豊かさあふれる南信州農業！ 農から始まる新しい交流文化～

資料 2

## ■ 達成指標

重点取組	達成指標	現状 (2016年)	実績 (2020年)	目標年 (2022年)
1	45歳未満の新規就農者数(単年度)	28人	24人	28人
	Iターン就農者数(単年度)	5人	12人	5人
2	柿の栽培面積	517ha	534ha	542ha
	ぶどう無核大粒品種の栽培面積	21.8ha	45ha	25ha
3	きゅうり・アスパラガス施設面積	32ha	36.1ha	37ha
	白ねぎ等新品目栽培面積	23ha	34.5ha	26ha
	信州プレミアム牛肉認定頭数	694頭/年	954頭/年	765頭/年
4	伝統野菜認定数	11種類	14種類	13種類
	6次産業化総合化事業計画達成件数	1件	4件	4件
5	都市農村交流人口(単年度)	193,755人	29,377人	213,900人
	販売金額1億円以上の農産物直売所数	7か所	9か所	8か所
6	計画期間中に整備する重要な農業水利施設の整備箇所数	—	5か所	6か所
	多面的機能及び中山間直接支払取組面積	2,751ha	2,333ha	2,993ha

## 重点取組1：南信州農業の次代を担う人材の確保・育成

- 県、市町村、JA と連携し相談活動や研修事業等の充実による担い手確保の強化
  - 県、市町村、JA と連携した相談会を実施（延べ21回）
  - スキルアップセミナーの開催（農薬等基礎講座5回、柿3回、トマト2回、きゅうり2回、簿記等専門講座4回、計16回、延べ150名参加）
- 各種セミナー、研修会による新規就農者や中核的経営体の資質向上
  - 農業経営者総合サポート事業による伴走支援（対象経営体23戸に対し延べ66回）
  - 法人化に向けた個別相談会の実施（相談会3回 対象経営体3戸）
- 帰農塾等によるUIターンの含む定年帰農者への支援の充実
  - JA との共催による帰農塾の開催（基礎講座5回、専門講座6コース 合計28回、受講者24人）



【帰農塾閉講式】

## 重点取組2：新技術や新品種拡大による競争力の強い果樹産地づくり

- りんごの県オリジナル品種の戦略的拡大
  - シナノリップのモデルほ場2か所で生態調査及び熟度調査を実施
  - 管内全域を対象にシナノリップの地色を活用した収穫判断による適期収穫講習会を実施（約30人参加）
- 市田柿の生産拡大の推進
  - 市田柿の熟度調査（9月に4回）に基づく適期収穫指導の実施
  - 食品衛生法改正（HACCP等）に対応するための研修会等（2回）及び市田柿の栽培・加工研修会の開催（1回）
- りんご新しい化栽培やなしジョイント仕立て栽培など省力化と生産性向上の推進
  - りんご新しい化栽培ほ場の巡回指導（2か所・2回）
  - なしのV字ジョイント仕立て導入ほ場の巡回（3か所・4回）及び栽培技術指導の実施
- シャインマスカットやナガノパープル等無核大粒品種の生産拡大によるぶどうの産地化
  - シャインマスカット研究会の指導会の開催（凍害対策、幼木管理、生理障害・病害対策、適期収穫3回）



【シャインマスカット研究会】

### 重点取組3：マーケットインの複合産地の構築

- きゅうり・アスパラガスの施設化の推進
  - 雨よけ栽培や養液土耕栽培による収量品質の向上及び省力化を図るため、講習会などの機会を通じて雨よけ施設等の導入を啓発（8回）
  - ハウス内の夏期高温対策として、細霧冷房効果を確認し、JAにおけるネクストアグリプランの対象に加わった。
- 白ねぎ等新品目の作付推進
  - ネギハモグリバエ類の防除試験（2種類）により発生初期からの防除効果を確認した。
  - ウイルス耐病性に優れたズッキーニの選定に向けた品種試験により有望品種の絞込を実施
- ダリア等 200 種類以上の多品目花き生産への支援
  - ダリアの生産性向上に向け、夏期の高温障害対策として細霧冷房効果を確認（1か所）
  - ホオズキのガク斑点症状の解明に向けた調査の実施（1ヶ所）
- 県内一の茶産地の維持
  - 春整枝講習会（3月中旬 13会場、73人）、適採講習会（4月上旬 50人参加）及び整枝講習会（6月下旬 54人参加）実施
- 需要に即したきのこ生産
  - ロスピン率の低減に向けた落下菌及び付着菌調査とコンタミ経路解明のための検討会を専技及び試験場研究員と共に開催
  - 4～6月、9～12月、2～3月に毎週4か所のキノコバエ発生状況を調査
- 信州プレミアム牛肉・銘柄豚など畜産物の生産拡大
  - 農場 HACCP の意義啓発のため、信州あんしん農産物(牛肉)生産認定農場(35戸)の巡回により衛生管理指導を行うとともに、1戸で認証取得に向けた支援を実施
  - 広報による飼養衛生管理基準の周知(肉牛35戸、豚15戸)、特に養豚農家を対象に訪問による基準順守の徹底(延べ234回)
- ICT等新技術の導入検討
  - 水田センサー、果実非破壊糖度計、牛行動監視システム等の「お試し導入」を通じた効果実証検討



【きゅうりハウスの細霧冷房】

### 重点取組4：稼ぐ農業ビジネスに向けた高付加価値化の推進

- シードルなど新たな地域特産品の開発の推進と消費の拡大
  - シードル生産者の生産に係る状況・意向把握（5件）及びシードル導入（委託醸造）希望者の経営指標の作成支援
- 輸出を志向する取組や認証取得等高付加価値販売を目指す取組への支援
  - 輸出果実（なし、りんご）の検疫及び施設査察の支援、市田柿輸出の取組支援（1団体）
- 伝統野菜をはじめとした地元食材の食べ方提案等による消費誘導
  - 伝統野菜カードの作成（14種類）
  - ていざなす生産者組織を対象としたレストランのシェフによる規格外品などの有効活用に向けた新しい食べ方の提案



【ていざなす生産者組織への新しい食べ方提案】

## 重点取組 5：食育の推進と交流を通じた地消地産の拡大

- 小学生や未就学児との農業体験会の開催など教育現場との協働による

### 食育の強化

➢大豆「つぶほまれ」を活用した小学校における活動支援及び阿智村における「まめっこ応援団」による食育活動を支援

- 直売所の品揃え強化・ネットワーク化等による消費誘導

➢新型コロナウイルス感染防止対策の徹底に向け、直売施設に対する巡回指導の実施

- 市田柿など地域特産品のレシピ開発や料理講座等への支援

➢市田柿のPRのためのポスター掲示やリーフレットの配布

- 交流人口増加を見据えた地元農畜産物のPRと「観光＋農業」の推進

➢新しい担い手として地域との連携を希望しているゲストハウスオーナー5人に対し、ニーズの聞き取りや、意見交換会を実施

➢地元産農産物をPRしたい生産者とそれらを活用した調理などに取り組みたい飲食店が一堂に会して新たな取引につなげることを目的とした「もくよういち（6月から毎週木曜日に開催）」の企画から運営を支援



【大豆「つぶほまれ」小学生への栽培講習会】

## 重点取組 6：農を基軸とした多様で豊かな地域づくり

- 農業体験型研修の充実による移住・定住者の支援

➢移住を希望している者等を対象とした「南信州農業相談会」をwebにより実施（相談者6人）

- 企業法人等による荒廃農地の活用や農地中間管理事業等の活用による農用地活用の最適化の推進

➢人・農地プランの実質化のため、全市町村を対象に相談活動を実施し、49のプランを実質化

- 農村の持つ多面的機能の維持や小水力発電など地域資源の活用促進

➢多面的機能支払交付金については、12市町村1,942haを対象に交付金を交付し、農業生産基盤等の維持活動を支援

➢中山間地域直接支払事業交付金を活用し、全市町村857.6haで中山間農用地の保全を支援

- 農業用施設の長寿命化及び農村の防災対策の推進

➢計画期間中に整備する6か所のうち、3か所の水路補修工事を実施し、累計で5か所が完了



【塗装した生田寺沢水管橋】